

演題：患者複雑性研究 ～その現状と今後の道しるべ～

抄録：患者複雑性や患者複雑性研究って何？あまり馴染みがないかもしれません。日本では高齢化に伴い、マルチモビディティやポリファーマシー、認知症やうつ病といった精神疾患、社会的孤立や老老・認認介護など、複雑な背景をもつ高齢者が増加していることはご存知の通りです。また、高齢者のみならず、社会格差の拡大により複雑な背景は若年層にも広がりつつあります。このような状況を踏まえ、患者の抱える生物心理社会的要因を「患者複雑性」として評価し、よりよい治療やケアを提供しようという動きがみられています。患者を多角的に捉える必要のあるプライマリ・ケア領域において、患者複雑性はますます重要なトピックになりつつあり、それは研究においても同様です。今回は、患者複雑性研究の概要、患者複雑性研究における尺度とその使い方、実際の患者複雑性研究について扱うことで、今後の患者複雑性研究への道しるべとなるシンポジウムを目指します。